

平成30年度第1回河南町地域公共交通検討会議 会議録（議事要旨）

- 日 時 / 平成30年11月15日（木）午後2時00分～午後4時00分
- 場 所 / 河南町役場4階 大会議室南
- 出席者 / 委員15名／欠席委員4名
事務局7名
傍聴者4名
- 配布資料
 - ・議事次第
 - ・委員名簿
 - ・検討会議資料（資料1～資料3）
 - ・参考資料（カナちゃんバス・やまなみタクシーの利用状況について）
- 議 第
 - 1. 開会
 - 2. 挨拶
 - 3. 案件
 - （1）河南町地域公共交通について
 - ①これまでの経緯について
 - ・実証運行の経過と結果について
 - ・デマンド型交通調査について
 - ②本格運行について
 - （2）その他

○議事要旨

■委員交代について

河南町区長会 会長 榎野 日出男氏に変わり、区長会 副会長 寺塩 博一氏が就任される。

近畿運輸局 大阪運輸支局 総務企画部門 湯川 義彦氏に変わり、稲沢 文啓氏が同じく、輸送部門 田内 文雄氏に変わり、後藤 孝行氏が就任される。

（当日、後藤委員の代理で木原氏が出席される。）

■（１）「河南町地域公共交通」①これまでの経緯について

事務局から概略説明。

■②本格運行について

事務局から概略説明。

◆意見

- ・ さくら坂４丁目で自治会加入全世帯に乗車券を配ったとお聞きしたが、その乗車券の利用状況や反響はどうでしたか。
→ まだ、集計は行っていないが、利用するきっかけになったとの声は聞いている。
- ・ 本格運行に向けてバス車両の改善・料金箱の改善等は考えていますか。
→ 本格運行後に低床式バス導入の検討を行いたい。導入している大阪狭山市に見学してきたのでよいところを取り入れていきたい。
- ・ 改善時期についてはどう考えるか
→ 本格運行決定後に予算化を検討していきたい。
- ・ 金剛バスとの協議はどのくらい進んでいるのか
→ 金剛バスとは寺田バス停で乗り継ぎ券の発行等で相談しているが難しいとの回答で前回の検討会議でもバスのロータリーがないので協議が難しい状況です。
- ・ 委員の皆さんは、発行しているガイドブックはどのくらい、使用していますか
→ 大宝地区での具体的な例として「カナちゃんバスで廣谷医院へ行くには」と聞かれ、その時にこのガイドブックを使って説明を行った。まだ、高齢者の方で利用方法等がわからない方がいるので、その際には便利かと思う。
- ・ このガイドブックはどのくらい利用状況があるのか。
→ 町内全戸配布を行い、7,000部作成し、残り10部程度である。町外の方からの請求もあり、かなり、利用されていると思われる。
- ・ 本格運行後PDCAチェック機能方法及び財政面に関してどう考えているか。
→ 財政面については、本町の公共交通は町の最優先課題と位置づけている。町長も同じ考えである。将来、この事業に予算がつくことについては、誰にも言えない。ただ、予算編成の取捨選択の中で本事業を優先して予算化を行っていきたい。

本格運行に向けて入札等による経費削減を行っていききたい。

→地方創生の交付金をガイドブックの作成や運行事業費として活用した。金剛バスとの接点については、前回、金剛バスの北野委員からも乗り継ぎするならターミナルが必要というご意見を頂きました。それ以前にも旧庁舎周辺の土地に仮称バスの駅かなんというふれあい交流の場の整備も1つの考えとして議会にも説明しており、現在も検討中ですがその部分をまちづくりの拠点にしていききたいという考えを持っています。

- 本格運行をどのように評価したらどうか何か事例でもあれば教えて頂きたい。

→午前中に隣接の太子町で交通会議に出席してきた。活性化再生法の地域公共交通網計画を今年度策定する。概ね5年間の計画を立てる。1年経過後に毎年、評価を行う。

- 法定協議会・交通協議会を開催する義務は生じるのか

→太子町は法律のちがう法定協議会の話です。河南町の乗合バス事業という事に関しては、道路運送法の協議会なので会議体の同意を得て、運行の申請をもらっている。今年の1月に3年間の更新を行っているので変更がなければ手続きはいらぬ。3年後の更新時には交通会議の同意を得て申請して頂く。あまり、大阪府下では、市町村有償運行の数が少ない。評価の指標は色々あるが、当然、利用者の考えも重要な指標と思う。財政的な観点では当然、収支率も重要な指標には間違いはないが、まちづくりや高齢者の外出支援のために公費を投入することは、やむを得ないと考え、特段、収支率がどうだというつもりはない。今の目標は100%から15パーセントと示されているが実際、路線バスに関わらず、100パーセント以上となればいいが、現実問題としてどの事業者でも非常に厳しい。コミバスという市町村が支援する場合でも収支率50パーセントいくのは非常に少ない。あまり、収支率のみをとらえるのはどうかと考える。当然、利用者数も非常に重要な指標である。税の投入効果を見るには、当然、利用者数も大事な指標ではあるが、小川先生のおっしゃった偏りをクリアするのは非常に難しい。乗車を促すことは、必要だが実際問題どこまで可能かは別の問題でどこの市町村も指標には苦労している。

- 本日の検討会議は報告で終わりですか。何か決めることはあるのか。

→本日は検討会議なので、何かを決定する場ではない。検討会議で十分、検討を行

い、交通会議で決定するものかと私は認識している。

→今までの議論、これからの議論にお答えできる部分とできない部分があるかと思うが今後、本格運行の中で改善するところもあると思う。今回、事務局から示している案で本格運行に移行したい。法定会議にかけていただきたいというのが、事務局からのお願いです。

・大宝地区では、評判がよく、特に中学生の利用が増えてきている。

・一番、確認しておきたいのは、PDCAはどこでやるのかですが

→私の意見なのですが、小川先生からの提案、色々ご指摘あったことにうなずく点が多々ありました。ひとつはPDCAを回す。今、実証運行しているが、実態は実証という言葉をとるかからないかという風に私は思っています。他の計画でもそうですが、そのまま続けていくのではなく、運行を継続するためには検証が必要であり、検証方法としては、進行管理する部署、審議会等が必要であると思っている。交通会議は、継続して頂き、検討会議で検討作業をやって頂ければと思います。運行内容に変更がある場合は、交通会議に諮る形ができればと思う。最低、毎年1回検証できれば色々な検証できるのではないかと思う。検証方法でお金がかかるかが懸念されるがリサーチの方法は考えなくてはならない。

・交通会議はどうなるのですか

→交通会議は、手続きには必要な法定会議です

・PDCAと交通会議の関係は

→それはまだ議論していません。

・河南町は、検討会議と交通会議の2つを持っているが、交通会議しか持っていない自治体ではPDCAの確認は誰がやっているのか。

→2つ持っている自治体は多くはない。ほとんどが交通会議の中で複数の役割を持たして対応している。やはり、委員の皆様にお集まりいただくのも手間暇かかるので、多くの場合は色々な会議の役割を兼ねている会議の設定をしている。

PDCAサイクルを回すということで、そのチェックをどうするかというようなものは、やはりこの会議体で、前年度の実績に応じて報告・討議が行われているものが多い。河南町の様に2つの組織体がある市町村は少なく、非常に充実した組織体を持っているが、必ずしも2つないといけないかという訳ではない。

- 運行時間帯について地域の方は現状のままでいいのか。
 - 時間変更についての要望は特に聞いてはいない。
 - さくら坂地区についても特に要望は聞いていない。18時以降の帰宅であれば金剛バスで間に合っている。
 - 北部便の方も現状のままで問題ないかと考えている。
- 利便性に関してはかなり向上してきた。議会の中でもそういう話が出ている。そうした中、実証運行からそろそろ本格運行に移行してはと考える。本格運行後も問題点がでてくるだろう。議会も大淀町への視察を行った。河南町には鉄道がない。大淀町は駅が3つある。また、河南町にはタクシー会社がないため、コストがかかる。議会の中でもデマンドなど検討しているが、運行継続については各委員のご意見を聞かせて頂いて、議会へ伝えていく。

(平峯会長よりの総括)

本日を総括しますと、事務局から本格運行への移行の資料が出てきて、不足分など事務局で整理し、各委員に送付し、交通会議に臨んで頂きたい。

実証運行が3年間、その前に基本計画を策定するために3年程度時間を費やし、ほぼ検討会議の役割は果たせたと思っている。これが成功するかは、住民と行政がつくりあげる点、金剛バスとの連携を図り、公共交通のネットワークをつくる点、町のまちづくり、あるいは活性化につながる点、この3つの前提を崩してはならないということで進めてきた。ここで、ひと区切りとして、交通会議に諮ることに結論を得たということにさせて頂きたいと思う。